

参考試写(予定)
『月はどっちに出ている』

映画を 作るということ



崔 洋一(さい・よういち)

1949年、長野県出身。
1976年『愛のコリーダ』(大島渚監督)などの助監督を務め、
1983年『十階のモスキート』で映画監督デビュー。
1993年『月はどっちに出ている』で日本アカデミー賞などの
映画賞を総なめにする。
1996年に韓国留学。
○主な作品
『いつか誰かが殺される』『花のあすか組』『Aサインデイズ』
『マークスの山』『犬、走る DOG RACE』『豚の報い』『刑務
所の中』『クイール』『血と骨』『カムイ外伝』など。
現在、日本映画監督協会理事長
東京大学 非常勤講師

●講演：崔 洋一(映画監督)

●司会：菅 孝行(小論文講師)

崔洋一という映画監督がいる。テレビ番組でのコメンテーターなどでもお馴染みかもしれない。姓名を見て明らかのように、彼は在日外国人である。略歴に韓国留学とあるから、韓国籍だろう。同時に、日本映画監督協会の理事長でもある。外国人の理事長は日本映画史上はじめてだ。これは、崔洋一の仕事に対する日本の映画監督たちのリスペクトなしにはありえないできごとだ。彼は、大島渚監督のチーフ助監督を務めたのち、『十階のモスキート』『友よ、静かに眠れ』『月はどっちに出ている』『豚の報い』『カムイ外伝』など次々名作・話題作を撮ってきた。

当日、参考試写する『月はどっちに出ている』は、その年の映画賞を山のように取った衝撃的作品だった。原作：梁石日、脚本：鄭義信／崔洋一、監督：崔洋一という、在日韓国人でなければ作れない、在日の本音をぶちまけた、しかし、紛れもない<日本語>映画の大傑作である。この映画は笑える。笑っているうちに、これって日本人は笑っているのかね、という思いにも駆られる。都合が悪いことは、そっとして<くないこと>にしてきた、歴史の暗部も浮かび上がってくるからだ。

映画やテレビのことでも、崔洋一の人生の軌跡でも、社会問題でも、知りたいことのある人は是非たくさん集まってほしい。ただし、映画・映像に関心のあることが条件だ。

10月14日(火) 17:00~20:30
新宿校 402教室

入場無料
申込不要

〒160-0023 新宿区西新宿 7-12-1
☎0120-198-520
●JR・小田急線・京王線・東京メトロ丸ノ内線・都営新宿線／新宿駅西口より徒歩3分
●都営大江戸線／新宿西口駅D4出口より徒歩1分
●西武新宿線／西武新宿駅南口より徒歩3分

